

平成29年第2回魚沼市議会定例会
一般質問通告者一覧表

質問順	議席番号	質問者	質問方式
7月14日(1日目)			
1	13	佐藤 肇	一問一答
2	11	大平 栄治	一問一答
3	2	浅井 宏昭	一括
4	14	関矢 孝夫	一問一答
5	3	星野 みゆき	一括
6	5	大桃 聡	一問一答
7	19	遠藤 徳一	一問一答
8	16	本田 篤	一問一答
9	10	岡部 計夫	一問一答
7月18日(2日目)			
10	12	渡辺 一美	一問一答
11	18	大屋 角政	一問一答
12	9	佐藤 敏雄	一問一答
13	1	星 直樹	一括
14	6	大平 恭児	一問一答
15	8	志田 貢	一括
16	17	森山 英敏	一括
17	7	富永 三千敏	一括
18	15	高野 甲子雄	一問一答

※一括：一括質問一括答弁。質問を一括して行い、それに対する答弁も一括して行う。

※一問一答：初回は一括質問一括答弁とし、再質問以降は一問ずつ質問、答弁を行う。

平成29年第2回魚沼市議会定例会一般質問通告一覧

平成29年7月14日（1日目）

1番（議席13番）佐藤 肇 一問一答

【メモ】

1. 行政事務のスリム化とサービス向上の方策を問う

新庁舎の建設により行政事務の一元化が図られるが、これによる市民サービスの低下を招かない方策が必要と考え、今後の取り組みについて市長の所信を問う。

- (1) 新庁舎及び北部振興事務所以外に、行政窓口業務を行う考えはないか。また、コンビニなどに委託している各種証明の発行を簡易郵便局や農協の支所などに拡大できないか。
- (2) 市立医療機関や小出郷文化会館の指定管理が進められ、一定の成果が出ている。今後は市立保育園、学童保育、観光交流施設の民営化が課題と考えるがどうか。
- (3) 各地区の公園、公民館、体育館などの施設管理、堤防や水路の草刈業務等は地域コミュニティ協議会などに指定管理に出せる業務と考えるが、積極的に進める考えはないか。
- (4) 農林や建設土木等、専門職が必要な分野があるが、設計や施工管理など、今以上に外注化を進める考えはないか。
- (5) 職員の事務量を減らすとともに、機械化、電算化を進める必要がある。市長の方針はどうか。
- (6) 季節や時期により業務が集中する課や大型事業に取り組む課では、担当職員の残業が増え、メンタル面のケアも必要となる。一部職員の業務が過重とならないよう部署や担当課を超えた応援体制が求められると考えるがどうか。

2番（議席11番）大平 栄 治 一問一答

1. 魚沼市斎場建設事業について問う

佐藤雅一市長が就任する以前の事業であり、すでに事業完了した魚沼市斎場建設事業は、その事業の進め方、行政執行のやり方に大きな落ち度があったことを指摘する。行政執行の過程でそれを行った職員に落ち度があったとしても、その最終責任は市長が負うことになる。そこで、魚沼市斎場建設事業を振り返り、問題点に対する市長の見解を問う。

- (1) 平成25年第3回定例会で斎場用地取得について提案された際、新斎場建設の財源は合併特例債を使うと説明した。また、平成26年度、27年度の継続事業として計上された予算

も、合併特例債を財源として提案された。ところが、決算の段階で合併特例債以外に財源として予算計上していない斎場建設費だったが、議会議決もせずに勝手に財源割合を変更し合併特例債を減額し、予算書の衛生費にない、どこが出所かわからない一般財源で支払ったのは違法行為そのものだ。市長の見解を問う。

- (2) 合併特例債を減額した分、魚沼市が将来国からの交付税として充当される財源補填が、減額された70%分受けられなくなった。結果的に魚沼市に損害を与えたことになるのではないか。
- (3) 魚沼市新斎場建設では、その敷地から大量の廃棄物が出てきたことにより、前地権者を巻き込む形で現在も係争状態にある。その廃棄物処理費用は斎場建設工事費とは分離し、これまで市が不法投棄ごみ処理を行ってきた事例に倣い、補正予算を組むなど別途処理することを私は求めてきた。しかし、市は一連工事としてその廃棄物処理を進めた。その結果、その原因者の責任所在も明確にされないまま来たものとする。市長はこれからも同様のやり方を取るのか。
- (4) 前地権者に対する瑕疵請求は、今現在も支払われてはおらず未納金で残っている。また、前地権者は債権の存在を認めていない。市は敷地の廃棄物処理を進める過程で前地権者の立ち合いを求めず、前地権者の責任であることも明確にすることもせず、勝手に廃棄物処理を進め、後になってから前地権者に請求しても、支払ってもらえないのは当然である。必要な手続きを怠った市の責任である。当時担当した職員を処分する考えはないか。いつまでに責任を明確にするのか。不納欠損となれば市の損害である。誰が責任を取るのか。

2. 堀之内医療センターの診療体制について

平成29年4月から療養病床を廃止し、魚沼市立堀之内医療センターとして再スタートしたが、次の点について問う。

- (1) 地域医療の充実を求める市民の要求は大きい。今後どのように進めていくのか。医師、看護師確保など困難な問題もあるが、市長の見解を問う。
- (2) 病床廃止後、今現在の診療体制はどうなっているのか。
- (3) 病床跡を使って介護老人保健施設の導入を検討していたが、その進行状況はどうか。

3番（議席2番）浅井宏昭 一括

1. 高齢者の移動手段について

- (1) 入広瀬地区で10月から運行するコミュニティバスに対する市の姿勢、助成、支援体制を問う。
 - (2) 入広瀬地区以外でも高齢者の足の問題を耳にしており、山間部を中心にコミュニティバスを広げていくよう取り組んでいただきたいが、運行する予定はあるか。
 - (3) 交通弱者の高齢者のための移動手段について、市長の見解を問う。
2. 子育て環境の整備について
 - (1) オムツやミルクの助成・無償化等の援助があると、経済的な負担が軽くなるが、市長としてはどう考えるか。
 - (2) これからの子育て世代のために、どのような施策を考えているか。

4番（議席14番）関 矢 孝 夫 一問一答

1. 国土強靱化地域計画の策定について

「国土強靱化地域計画」を策定すると、国土強靱に係る各種事業が効果的かつスムーズに進捗することが期待できるため、国としては32の関係府省庁所管の交付金・補助金の支援が講じられるとともに、その交付の判断において一定程度配慮されることとなっている。魚沼市は、いつを目途に「国土強靱化地域計画」を策定する考えか。また、その内容等はどのようなものを検討されているか。

5番（議席3番）星 野 みゆき 一括

1. 堀之内病院の今後について

堀之内病院病床の跡地について、市長は「地域の方々の意見を伺ってから、堀之内医療センターを核とした医療・介護拠点として整備したい」としているが、どのような形で住民の意見を聞き、いつまでに方向性を決定するのか。地域の中心的建物であった堀之内病院の今後について見解を問う。

2. 暮らしを守る防災体制の整備について

消防団員の減少と団員構成の変化が、消防団の運営に影響を及ぼしている。適正な規模の活力ある消防団の確保を図っていくことが課題となるが、今後の展開を含め市長の見解を問う。

3. 地域活性化の充実・強化について

全国放送の集団お見合い番組「ナイナイのお見合い大作戦」の収録が決定したが、魚沼市として婚活支援のほか、観光や特産物など魚沼市の魅力を発信する絶好のこの機会に、どのような計画を進めているか。また、ほかのメディアを活用した計画

があるか問う。

6番（議席5番）大 桃 聡 一問一答

1. 説明員の虚偽答弁について

平成 29 年予算審査特別委員会第 4 日目において、当時の教育次長が虚偽答弁を行った。説明員が議会で虚偽答弁を行ったことを素直に認め、訂正し、議会及び市民に対して謝罪すべきと思うがどうか。

また、管理者である市長は議会での説明員の虚偽答弁を、どのように思っているか。

このような虚偽答弁が繰り返されないための改善策を、どのようにとるつもりか。

2. 市長の所信表明のあり方及び一般質問の通告期限について

魚沼市は通例により第 1 回定例会での所信表明のみであるが、南魚沼市は各定例会初日に市長が、終えた四半期の報告を含め反省点や改善点、これからの直近の四半期に向けた展望あるいは事業予定等の所信を述べ、それを受け各議員が翌日の正午を締め切りとして通告し、その一般質問が行われるのは翌週の月曜日からであり、通告から一週間という短さだ。魚沼市でも各定例会で、市長から四半期の展望等の所信表明をいただき、それについて一般質問するほうが的外れな議論にならないと考えるが市長の考えはどうか。通常 2 週間は長すぎる。議会運営委員会での協議も必要なのは承知しているが、改善の余地はないか。

7番（議席19番）遠 藤 徳 一 一問一答

1. 自主財源確保に向けた取り組みについて

地域インフラ維持、地域要望に対するハード事業や子育て支援、生活弱者対策等のソフト事業を持続的に執り行うには、基金の運用とあわせて自主財源の確保が重要となる。今後魚沼市が目指すお金を稼ぐ仕組みづくりは具体的にどこを考えているか。

(1) 魚沼市版「特区制度」を独自に設け、成長分野を見極め伸ばしていくべきと考える。魚沼市の成長分野をどう捉えているか。

(2) オリンピックの開催等も鑑みたインバウンドを含めた観光施策をどう取り組むか。

(3) 地域内の仕事おこしのための環境整備について、何が重要と考えているか。

(4) 魚沼市を経営感覚で運営していくにはその資質を持ち合わ

せた人材育成、輩出が重要と考えるが、起業家育成の重要性をどう捉えるか。

2. 副市長人事に求めるものは何か

市長は、どのような職責の中で、どのような分野の成果を期待しているのか。

8番（議席16番）本 田 篤 一問一答

1. ワクチン行政に邁進を

(1) 公衆衛生の普及と維持に努めるのは行政の責務である。特に子育て支援を社会全体で応援する現代では、ワクチン接種の公的支援はさらに重要度が増してきていると感じているが、市としてどのように感じているか。

(2) ワクチン接種の副反応等を考えると、補助だけの支援も課題があると感じる。集団免疫への理解に向けた啓発や副反応に対する健康被害の救済制度の充実が必要と考えるがどうか。

(3) 石川県野々市市では0から15歳まで助成し、市民が複数のメニューから予防接種を選択する方式の評判がいいそうだ。検討してみないか。

(4) 平成28年第4回定例会一般質問で、各種予防接種について「地元医師会及び小児科医から協力、助言いただきながら実施している」と、また、季節性インフルエンザの子どもへの予防接種については「接種体制や助成のあり方については、今後医師会等から助言いただきながら、近隣自治体の状況を見ながら検討を進めていきたい」と答弁があった。どのような助言をいただいたか。近隣自治体の状況を見ながらどう検討したか。

(5) おたふくかぜワクチンは副反応等のリスクも大きいですが、自然罹患の合併症の頻度と比較すると検討する価値があると考えます。助成に向けて検討してはどうか。

2. 新ごみ処理施設建設について

2市1町新ごみ処理施設建設候補地公募に3行政区から応募があったが、3行政区いずれも近隣行政区の同意が得られず適当でないという状況になっている。次について問う。

(1) 公募方式から、今後は行政主導方式になるのか。

(2) 炉の処理及び燃焼方式なども検討しているか。

3. 最終処分場について

(1) 魚沼市は県外の最終処分場に受け入れしてもらっているが、この現状に対し市の見解を問う。

(2) 平成35年度以降も現状のままか。新ごみ処理施設同様2市1町で検討していくのか。検討する場合、魚沼市も候補地に含まれるのか。

4. 鉄道の悪天候時運休について

大雨や大雪等の悪天候時に鉄道が運休することが、近年多くなったと感じる。安全面の確保と日常生活の足の確保について、どちらを優先すべきかの判断は分かれるが、悪天候の度に鉄道が運休すると、通勤通学に大きな影響があり、日常生活にも支障が出てくる。難しい課題ではあるが、市民の足に影響が出ないように、鉄道事業者と協議してはどうか。

9番(議席10番)岡部計夫 一問一答

1. 人口減少社会における成長戦略について

魚沼市の経済状況から交流人口増の政策が必要と考え、次の視点で経済波及効果の政策は何か問う。

- (1) 魚沼から尾瀬への入込客を、観光協会と連携してどのようにふやしていくのか。
- (2) 名所旧跡や豪雪を観光資源として、魚沼の「食文化」とあわせ、どう「物語」をつくって魚沼のよさをPRして入込客をふやしていくのか。
- (3) 自然体験型観光を通して、首都圏のニーズに応え中学生等の自然体験のメッカとして、どう入込客をふやしていくのか。
- (4) 都市と農村の、強みと弱みを補完しあう友好都市との連携強化で、どのような政策連携を図り交流人口をふやしていくのか。
- (5) 「稼ぐ観光」という視点で、どのような観光振興策を考え交流人口をふやし、市内に経済的波及効果をもたらすのか。

2. 副市長人事について

7月から総務省より新たに副市長を招いたが、副市長にどのような分野で仕事をしてもらい、その能力を発揮してほしいと考えているのか。

- (1) 職員のやる気をどう引き出し、政策決定に結びつけていくのか。
- (2) 職員の評価基準を減点主義から加点主義に変えて、積極的に政策参加させ、市民への行政サービスの向上に寄与させるか。
- (3) 職員を自治会やコミ協に出向かせ、現場のニーズを直接市政に反映させる仕組みづくりを考えているか。

10番（議席12番）渡辺 一 美 一問一答

1. 子育て支援・少子化対策について

市長の少子化対策、子育て支援策をさらに多くの住民に理解いただけるように次のことを提案し、見解を問う。

- (1) 未満児対象の保育事業は地域型保育給付の対象である小規模保育・家庭的保育・居宅訪問型保育・事業所内保育を活用して充実を図ってはどうか。
- (2) 子育て支援センターを各地域に配置し、出産から職場復帰への適切なアドバイスや、安心して家庭で保育できるように相談しやすい体制をつくってはどうか。
- (3) 産後ケア事業の実施により、子育て世代包括支援センターを開設してはどうか。
- (4) 一時預かりやファミリーサポートセンターなどの子育て支援事業の充実と利用の促進を図るため、利用券を発行し第2子以降無料で利用できるようにすることで親育ち子育ちを支援してはどうか。
- (5) 育児休業給付金の6か月以降の17%補給補助。さらに、年収300万円未満の父母の育児休業給付金に8%の上乗せ補助をして67%支給から75%に。6か月以降を25%上乗せ補助してはどうか。
- (6) 就学前児童の医療費を完全無料化してはどうか。
- (7) インフルエンザ予防接種助成事業を実施してはどうか。

2. 地域優良賃貸住宅制度活用について

水の郷工業団地に企業誘致が決まり、雇用の促進が期待される。魚沼市に住んでもらえるように、伊米ヶ崎地域と宇賀地地域に、高齢者・障害者・子育て世帯等に良好な居住環境の賃貸住宅の供給を促進するため、賃貸住宅の整備費用に対する助成や家賃の助成を行う地域優良賃貸住宅制度を活用して定住施策を実施してはどうか。

3. 新ヘルスケア産業の育成について

経済産業省は、地域における自立的なヘルスケアビジネスの創出拠点となる「地域版次世代ヘルスケア産業協議会」の設置を推進している。当市でも、農林課・商工観光課・福祉課・健康課・土木課・企画政策課などが連携して「生涯現役社会」を目指す新ヘルスケア産業育成である「地域版次世代ヘルスケア産業協議会」を立ち上げて、当市の成長戦略の柱としてはどうか。

4. 地域包括ケア病棟について

地域包括ケア病棟は、より患者の生活に密着した急性期入院からの橋渡しの役割を担い、退院後も地域と連携を取りながら、緊急時には受け入れを行うこともできるほか、家族のレスパイト（休憩）入院にも対応するなど、地域にとって頼れる存在である。堀之内病院の再編策として地域包括ケア病棟を検討してはどうか。

11番（議席18番）大屋角政 一問一答

1. 入院ベッド50床の復活について

堀之内病院は、2月定例会において50床の入院ベッドを廃止し、無床診療所の堀之内医療センターになった。しかし、その復活を求める声は多くある。医師・看護師が充足されたなら復活を考えているか見解を求める。

2. 次期介護保険事業計画について

次の計画において特別養護老人ホームの増設を考えているか。また、利用料が高くて入れない方も多いため、市が助成して国民年金でも入所できるようにするべきと考えるがどうか。

介護保険料は、合併当初と比べ現在2.4倍になっている。介護保険料の軽減なしに市民の暮らしは守れない。介護保険料の軽減を強く求めるがどうか。

3. 給付型奨学金制度について

専門学校や短大、大学などに進学する際、多くの学生が現行の奨学金制度に頼らざるを得ない。卒業後、借金を背負い社会に出ることになる。こうした負担をなくすために、返済のいない給付型奨学金制度を国も県も検討している。魚沼市も国・県と連携しながら実現のために努力してはどうか。

4. 米の直接支払交付金について

米の直接支払交付金制度は今年度で廃止予定だが、継続・充実を求める農家の方が多い。国・県に対して継続・充実を求めている必要があると考えるがどうか。また、市単独では考えているか。

12番（議席9番）佐藤敏雄 一問一答

1. 人口減少対策・婚活について

(1) 新たに就任した市長として、何をすることがこの対策の決め手と考えているか。

(2) 婚活パーティー等に参加できない方々の実態調査をして、小千谷市方式・糸魚川市方式などの対策が必要と思うが、市

長の見解を問う。

- (3) 安心して出産できる環境整備と、さらなる子育て支援が必要と思うが、市長の見解を問う。
- (4) 観光推進による交流人口の拡大策が必要と思うが、市長の見解を問う。

2. さらなる空き家対策について

- (1) 空き家対策として、県宅建協会との契約で対策を講じているが、成果と問題点について市長の見解を問う。
- (2) 相続放棄等で管理ができず倒壊寸前の危険な空き家等を把握していると思うが、対策は講じているのか。解体・撤去費用の補助制度をつくり対処すべきと思うがどうか。

13番（議席1番）星 直 樹 一括

1. ウィンタースポーツの普及・振興について

- (1) 冬季間における観光事業として、ウィンタースポーツは大変重要と考えるが、現状の取り組みと将来ビジョンをどのように考えているか。
- (2) 小・中学生に対するウィンタースポーツの普及と振興について問う。
 - ① 市内小中学校におけるスキー授業の実施状況と必要性について、どう考えているか。
 - ② 小中学生に対するウィンタースポーツの普及と振興と方策について、どのように考えているか。
- (3) 現在、民間で経営している市内5スキー場の、平成31年度以降についてどのように考えているか。

14番（議席6番）大 平 恭 児 一問一答

1. 市民生活の現状を問う

- (1) 市民の暮らしの実態をつかむことが、今後の施策を実施していく上で重要と考える。アンケートや意向調査を積極的に行い市民生活の現状を把握すべきではないか。
- (2) 国保税の市民負担の現状をどのように考えているのか。負担軽減を講じるべきと考えるがどうか。
- (3) 小出病院と魚沼基幹病院への無料通院バスや、バス代補助を願う声が上がっている。前向きに検討すべきではないか。
- (4) 率直な懇談の場を各地域につくり、出された意見を施策に結びつけるべきではないか。
- (5) 県内自治体の大半が行っている、子どもへのインフルエンザ予防接種の助成を実施するべきではないか。

2. 公共施設再編について

守門地区では、公共施設再編で体育館の解体方針により冬場のゲートボール場がなくなることにより強い懸念の声がある。現状をどう考えているのか。各地域の公共施設再編の丁寧な説明と協議、柔軟な考え方で進めるべきではないか。今後の対応はどのように考えているのか。

3. 核兵器廃絶について

「非核平和都市宣言」の当市として、現状をどのように考えているのか。政府に対し国連会議への参加と、条約締結の際には早期の批准を求めていくべきではないか見解を問う。

15番（議席8番）志田 貢 一括

1. 地域担当職員で新たな地域づくりを

市民と行政が情報を共有し、相互の理解と連携を深める取り組みとして、市職員が各地域の担当となり問題の解決に市民とともに取り組む「地域担当職員制度」が全国で導入されている。この制度を活用すれば市民サービスの不足部分を補い、地域の活性化にもつながると考え、地域担当職員制度を導入してみないか。

2. ドローンを利用したまちおこしを

現在、市で所有しているドローンの活用状況は現状どのようなものか。ドローンを活用して撮影した映像を動画サイトに投稿し、市民への情報提供、観光のPR、防災啓発、景観の記録保存など積極的な活用を研究して、まちおこしをしてみないか。

16番（議席17番）森山 英敏 一括

1. 人口減対策について

市外からの移住人口の増加や子育て世代を呼び込むために、市営住宅の建設や空き家などを買い取り、改修して、格安な価格での販売や貸与などで人口減に歯止めをかけることが必要と思われるが市長の見解を問う。

2. 農業政策について

来年から減反政策が廃止され、米価の下落や戸別所得補償がなくなり大きな収入減が予想されている。これにより担い手農家や農事法人などの経営に大きな影響があると思われる。市ではどのような対策を考えているのか。

17番（議席7番）富 永 三千敏 **一括**

1. 観光の仕組みを活用した地域産業の振興について

- (1) 市内各種産業等で個々に発信しているものを一元的に集約管理して発信できる仕組み、組織を構築するべきと思うが見解を問う。
- (2) 食でつながる元気なまちづくり推進事業の市外に向けた発信に力を入れるべきと思うがどうか。
- (3) 旅行者が求めるニーズにWi-Fiがあるが、光高速通信が未整備な地域の各事業所では通信速度が遅く旅行者に不自由を強いている。他地域と同様にICT環境を早急に整備するべきと思うがどうか。

18番（議席15番）高 野 甲子雄 **一問一答**

1. 少子化対策と子育て支援の充実について

- (1) 育児休業制度の啓発、普及を市内事業所へ働きかけてはどうか。
- (2) 市内保育園の保育定数の見直しを行い、さらなる保育の充実に努めるべきと考えるがどうか。
- (3) 市内保育園の臨時・非常勤職員の正職員化を進めるべきと考えるがどうか。
- (4) 経営の厳しさを耳にする私立保育園への委託費の増額を図るべきと考えるがどうか。
- (5) 少子化が進む魚沼市は、保育園の民営化を進めるべきではない。民営化を進める方針を見直す考えはないか。